

# 大田区男女共同参画に関する意識調査 報告書【概要版】

## 1 調査の概要

「大田区 男女共同参画に関する意識調査」は、男女共同参画や男女平等に対する区民の意識や実態を把握することを目的として実施した。本概要版は、同調査の結果をまとめた「大田区 男女共同参画に関する意識調査 報告書」の内容を抜粋したものである。

調査実施概要		調査項目
○対象	大田区に住民基本台帳登録をする20歳以上の区民	○職業について ○家庭生活・子育てについて ○ワーク・ライフ・バランスについて ○人権について ○性の多様性について ○地域活動について ○男女共同参画の取り組みについて
○対象者数	2,000名 (住民基本台帳から男女別に無作為抽出)	
○調査方法	郵送配布、郵送・WEB回答	
○有効回収率	34.4% (687件(うち郵送422件、WEB265件))	
○実施時期	令和6年10月15日～11月15日	

## 2 調査回答者のプロフィール

	男性	女性	その他	回答しない	無回答
性別(n=687)	39.6	58.1	0.1	1.0	1.2

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
年齢(n=687)	13.0	15.4	15.9	20.7	17.6	16.6	0.9

	未婚	既婚(事実婚を含む)	離別(結婚していたが、離婚した)	死別(結婚していたが、相手が亡くなった)	無回答
結婚(n=687)	27.5	61.4	6.0	3.9	1.2

	共に職業に就いている(内職・パートを含む)	どちらか一方が職業に就いている	どちらも職業に就いていない	無回答
結婚(n=422)	61.6	27.5	10.2	0.7

	ひとり暮らし	配偶者・パートナー	未婚の子ども	結婚した子ども	親	その他	無回答
同居人(n=687)	21.4	61.4	32.5	3.9	12.8	4.7	1.6

	小学校入学前	小学生	中学生	高校生	大学・大学院(短大、専門学校、予備校を含む)	職業に就いている	無職(学生除く)	無回答
子ども(n=250)	25.2	20.4	16.4	13.2	14.4	34.8	5.2	1.6

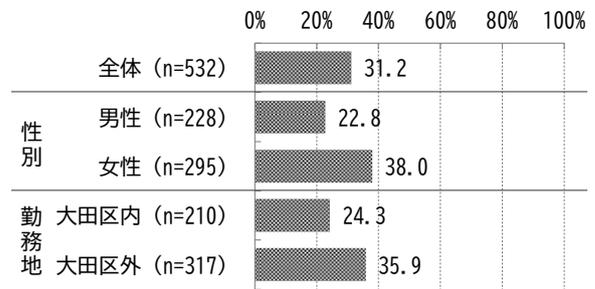
※単位は%。

### 3 結果の概要

#### (1) 職業について

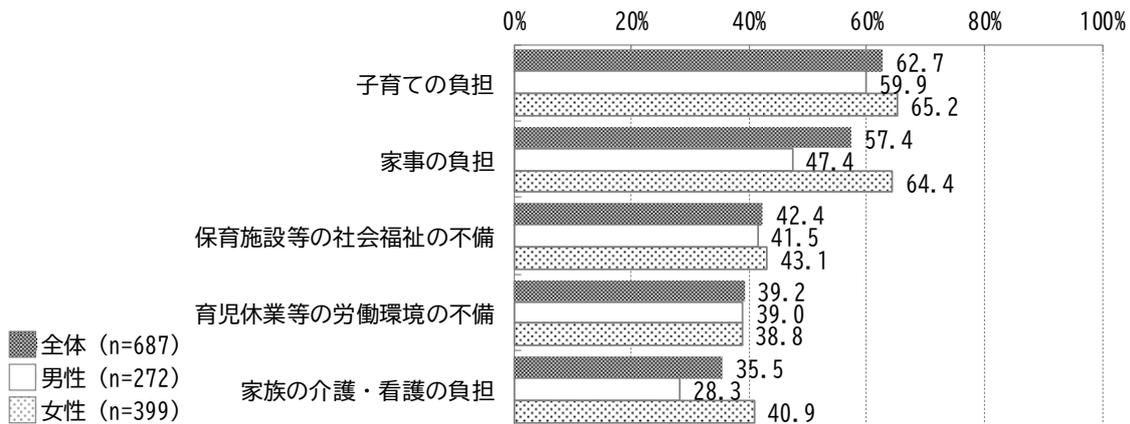
##### 問1-2① 職場での男女差別

○職場での男女差別については、「男女差別はないと思う」が66.2%と最も高く、次いで「補助的業務や雑務は女性が担っている」が15.0%、「賃金・昇進昇給の面で差がある」が14.1%となっている。「男女差別はある」は、全体では31.2%で、性別で見ると「女性」の方が「男性」よりも高い。また、勤務地別では「大田区内」の方が低い。※男女差別はある(%) = 100 - 男女差別はないと思う - 無回答



##### 問2 女性が継続し就業していくうえでの具体的な支障

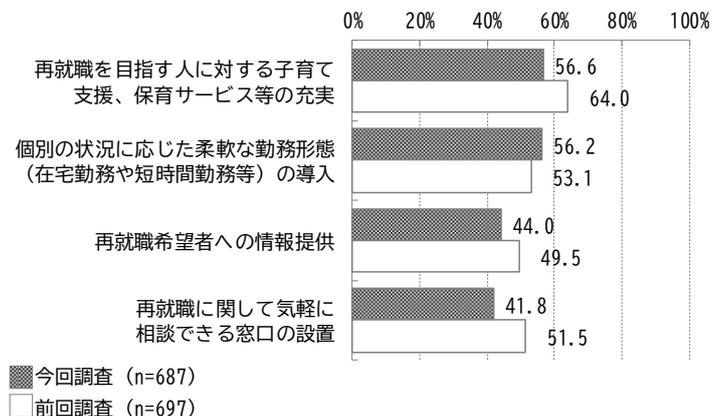
○女性が継続し就業していくうえでの支障について、「子育ての負担」が62.7%と最も高く、次いで「家事の負担」が57.4%、「保育施設等の社会福祉の不備」が42.4%、「育児休業等の労働環境の不備」が39.2%となっている。性別で見ると、「男性」「女性」ともに「子育ての負担」が最も高く、次いで「家事の負担」となっているが、両項目も「女性」の方が「男性」よりも高い。



※全体の上位5項目を抜粋。

##### 問3 子育てや介護等により離職した人が再就職するために必要なこと

○子育てや介護等により、いったん離職した人が再就職するために必要なことについて、「再就職を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実」が56.6%と最も高く、次いで「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務等）の導入」が56.2%、「再就職希望者への情報提供」が44.0%、「再就職に関して気軽に相談できる窓口の設置」が41.8%となっている。

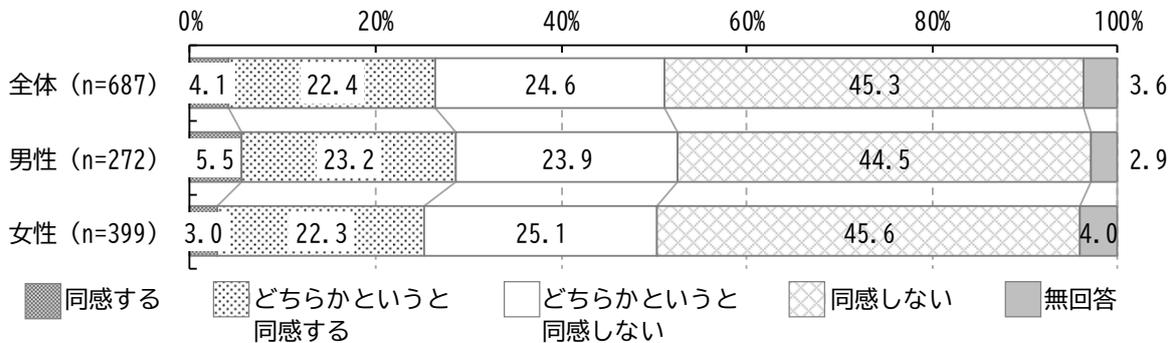


※上位4項目を抜粋。

## (2) 家庭生活・子育てについて

### 問5 固定的性別役割分担意識

○「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」という考え方について、肯定的評価が26.5%、否定的評価が69.9%であり、性別で見ると、「男性」での肯定的評価が28.7%、否定的評価が68.4%、「女性」では25.3%と70.7%となっている。



### 問6 家庭での、家事、育児、介護・看護等に関する配偶者・パートナーとの分担状況

○家庭での家事、育児、介護・看護等に関する配偶者・パートナーとの分担についてきいたところ、「料理、洗濯、掃除」「育児」「介護・看護」「家計管理」「収納・整理整頓」「生活環境の保守」「季節行事」では「主に女性が分担」が最も高く、「交流」では「男性と女性で同程度に分担」が最も高くなっている。

	主に・どちらかというと同感する 男性が分担	男性と女性で 同程度に分担	主に・どちらかというと同感する 女性が分担	その他	無回答
料理、洗濯、掃除	4.4	18.9	69.9	0.6	6.3
育児	0.6	11.4	59.2	18.3	10.5
介護・看護	1.8	14.0	40.4	30.6	13.2
家計管理	23.1	22.1	47.1	1.6	6.1
収納・整理整頓	7.5	26.8	58.2	0.2	7.3
生活環境の保守	37.4	28.4	27.2	0.2	6.7
交流	7.7	39.3	41.3	4.9	6.9
季節行事	3.4	31.0	57.8	2.0	5.9

単位：%

### 問7 1日平均の家事や育児等に使う時間

○1日平均の家事や育児等に使う時間（分）については、「平日」では「女性」が「男性」の3.9倍の208.3分、「休日」では2.2倍の245.8分であり、家庭での「女性」依存が根強く残っている。

	n	平均時間（分）	
		平日	休日
全体	595	142.6	188.1
性 別			
男性	242	53.9	112.2
女性	341	208.3	245.8

※nは回答者数。性別または年齢の無回答を除く。

### (3) ワーク・ライフ・バランスについて

#### 問8 ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（現状）の適合度合い

○ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（現状）の適合度合いは 36.9%で、「男性」の適合度合いは 41.2%、「女性」は 32.7%となっている。

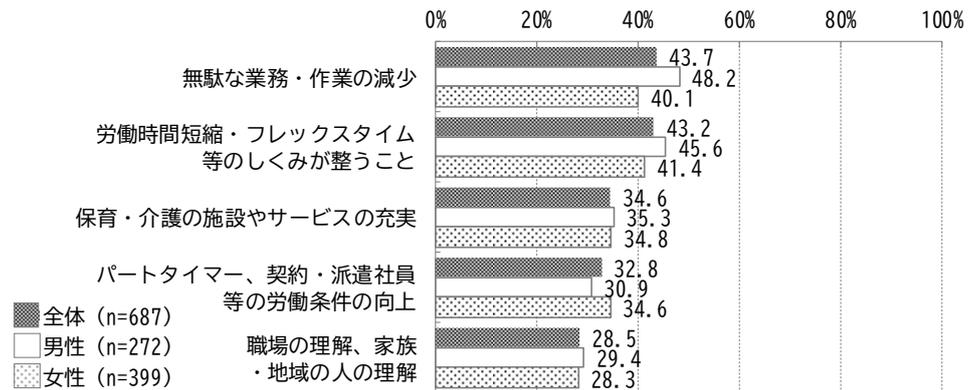
	全体			女性			男性		
	希望	現実（現状）	適合度合い	希望	現実（現状）	適合度合い	希望	現実（現状）	適合度合い
仕事優先	12	7	58.3%	7	6	85.7%	5	1	20.0%
家庭生活優先	56	29	51.8%	20	8	40.0%	34	19	55.9%
個人の生活優先	83	33	39.8%	42	18	42.9%	41	15	36.6%
仕事と家庭生活優先	54	30	55.6%	39	23	59.0%	14	6	42.9%
仕事と個人の生活優先	67	30	44.8%	24	12	50.0%	41	16	39.0%
家庭生活と個人の生活優先	82	15	18.3%	30	5	16.7%	48	8	16.7%
仕事・家庭生活・個人の生活を両立	240	75	31.3%	81	28	34.6%	156	46	29.5%
合計	594	219	36.9%	243	100	41.2%	339	111	32.7%

※%以外の数値は回答者数（n）。全体には、性別の「その他」「回答しない」「無回答」を含む。適合度合い＝現実（現状）÷希望×100。

#### 問9 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を進めるために必要なこと

○ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を進めるために必要なことについて、「無駄な業務・作業の減少」が 43.7%と最も高く、次いで「労働時間短縮・フレックスタイム等のしくみが整うこと」が 43.2%、

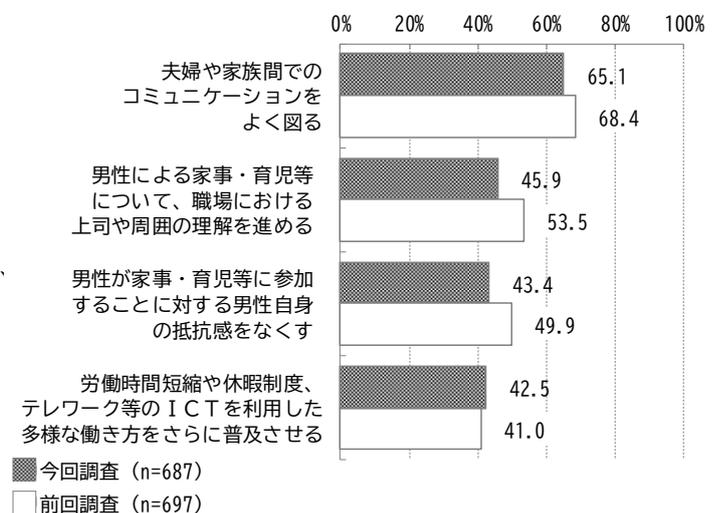
「保育・介護の施設やサービスの充実」が 34.6%、「パートタイマー、契約・派遣社員等の労働条件の向上」が 32.8%となっている。



※上位5項目を抜粋。

#### 問10 男性が家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくために必要なこと

○男性が家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が 65.1%と最も高く、次いで「男性による家事・育児等について、職場における上司や周囲の理解を進める」が 45.9%、「男性が家事・育児等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が 43.4%、「労働時間短縮や休暇制度、テレワーク等のICTを利用した多様な働き方をさらに普及させる」が 42.5%となっている。

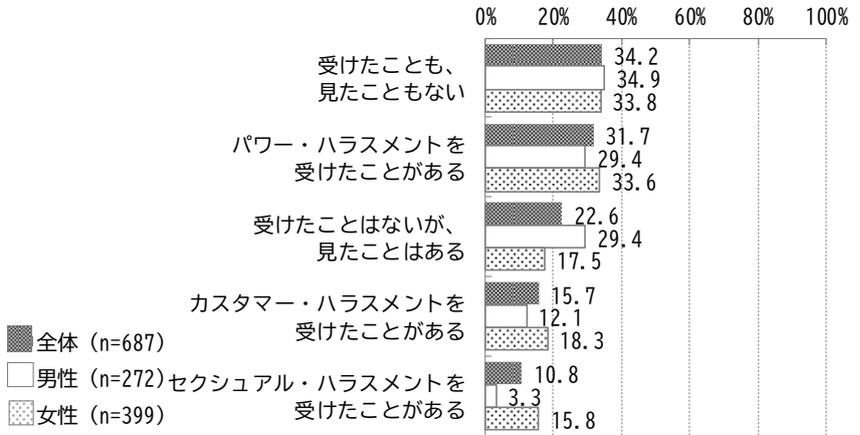


※上位4項目を抜粋。

#### (4) 人権について

### 問11 過去5年間に職場や学校等でハラスメントを受けたことや見たこと

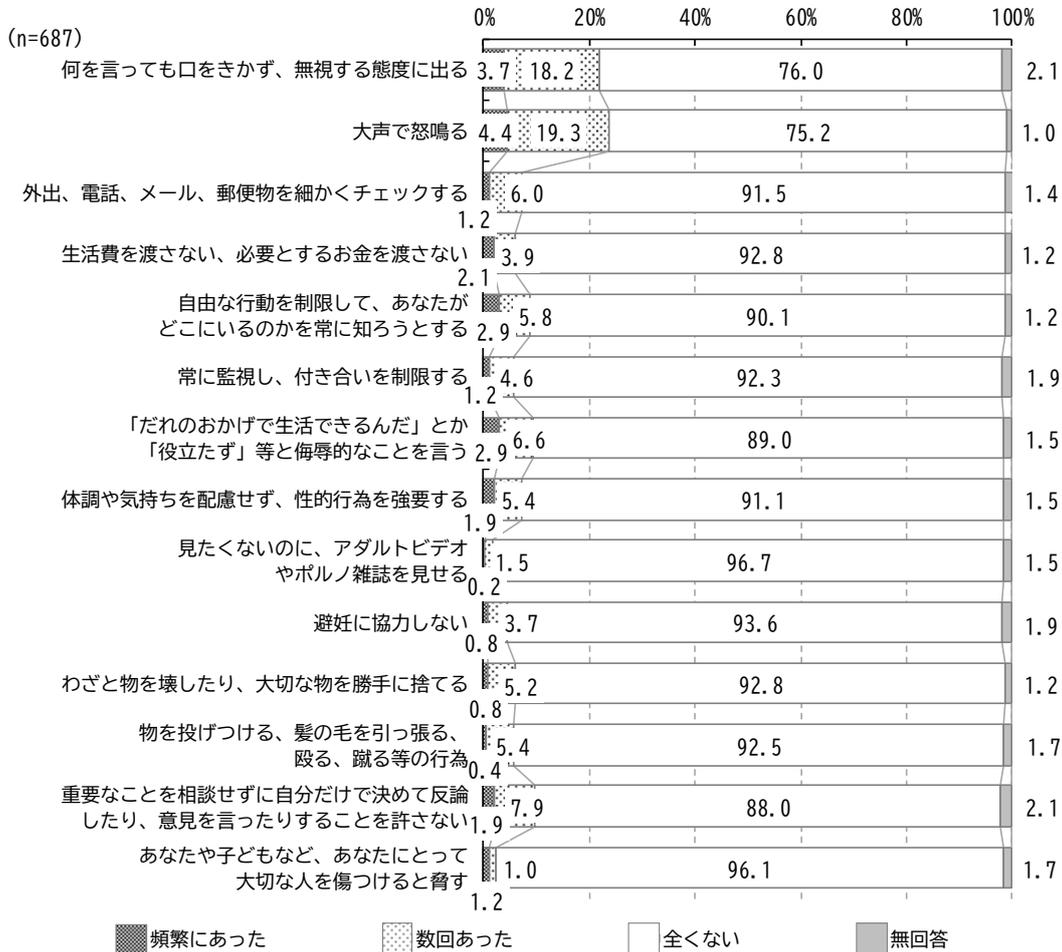
○過去5年間に職場や学校等でハラスメントを受けたことや見たことについて、「受けたことも、見たこともない」が34.2%と最も高く、次いで「パワー・ハラスメントを受けたことがある」が31.7%となっている。性別では、全ハラスメントで、「女性」の方が「男性」よりも「受けたことがある」が高い。



※上位5項目を抜粋。

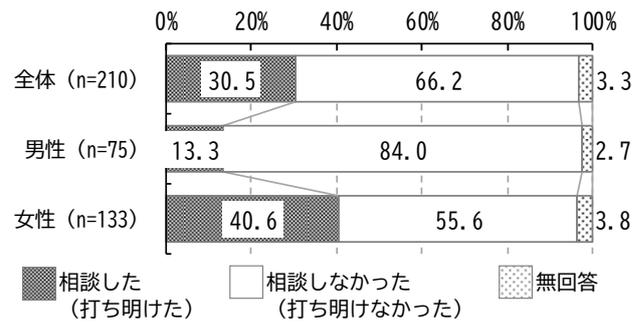
### 問14 過去5年間の配偶者やパートナーからのDVの有無

○過去5年間に配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーがいらっしゃる方に以下の行為を過去5年間に受けたことがあるかをきいたところ、「あった」（頻繁にあったと「数回あった」の合計）では「大声で怒鳴る」が23.7%と最も高く、次いで「何を言っても口をきかず、無視する態度に出る」が21.9%となっている。性別でみると、全てのDVについて、「女性」の方が「男性」よりも「あった」が高くなっている。



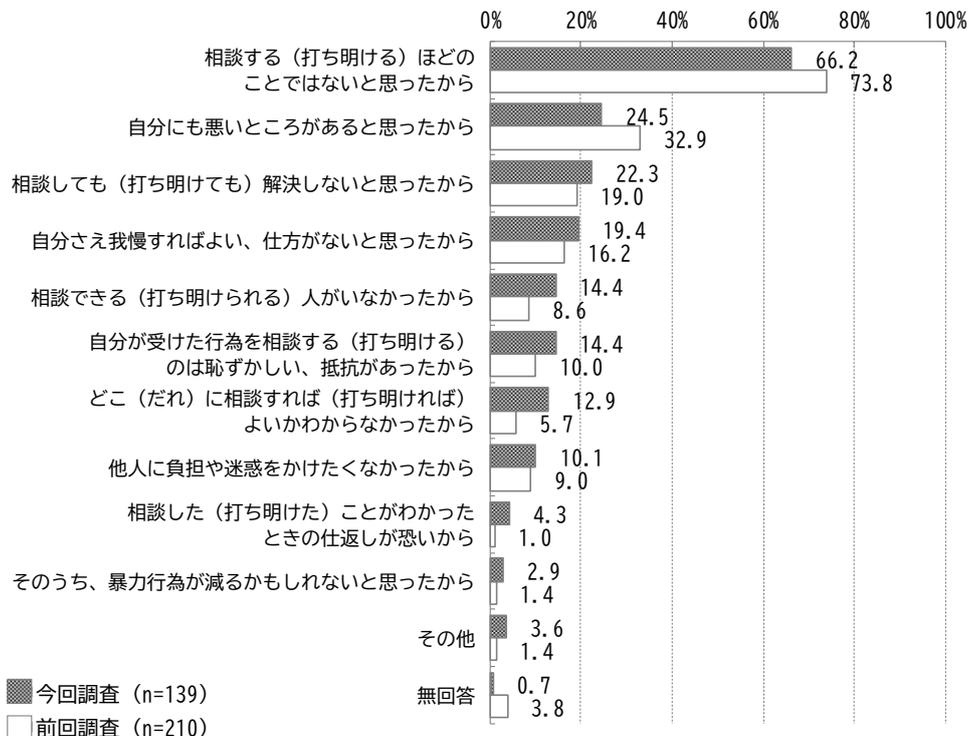
## 問15 DVがあった際の相談・打ち明け

○DVが「頻繁にあった」「数回あった」際に相談したり、打ち明けたりしたかについては、「相談した(打ち明けた)」が30.5%、「相談しなかった(打ち明けなかった)」が66.2%となっている。性別でみると、「女性」では「相談した(打ち明けた)」が40.6%の一方、「男性」では13.3%にとどまっている。



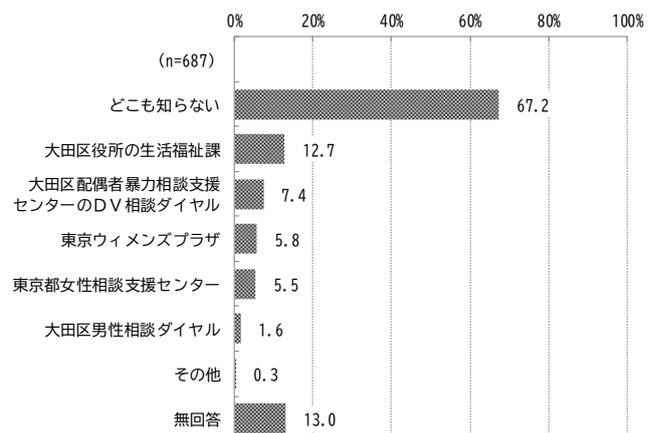
## 問15-2 どこ(だれ)にも相談しなかった(打ち明けなかった)理由

○どこ(だれ)にも相談しなかった(打ち明けなかった)理由は、「相談する(打ち明ける)ほどのことではないと思ったから」が66.2%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が24.5%、「相談しても(打ち明けても)解決しないと思ったから」が22.3%となっている。



## 問16 配偶者や恋人等のパートナーからの暴力被害に対する相談先の認知状況

○配偶者や恋人等のパートナーからの暴力被害に対する相談先の認知状況について、「どこも知らない」が67.2%と最も高い。



## (5) 性の多様性について

### 問19 自分のジェンダーアイデンティティや性的指向について悩んだこと

○自分のジェンダーアイデンティティ（自己の性別についての認識（性自認））や性的指向（好きになる性）について悩んだことについて、「ある」が2.6%、「ない」が91.4%となっている。また、性別・年齢別でみると、「男性・30～39歳」で「ある」が7.3%、「女性・30～39歳」で6.5%となっている。

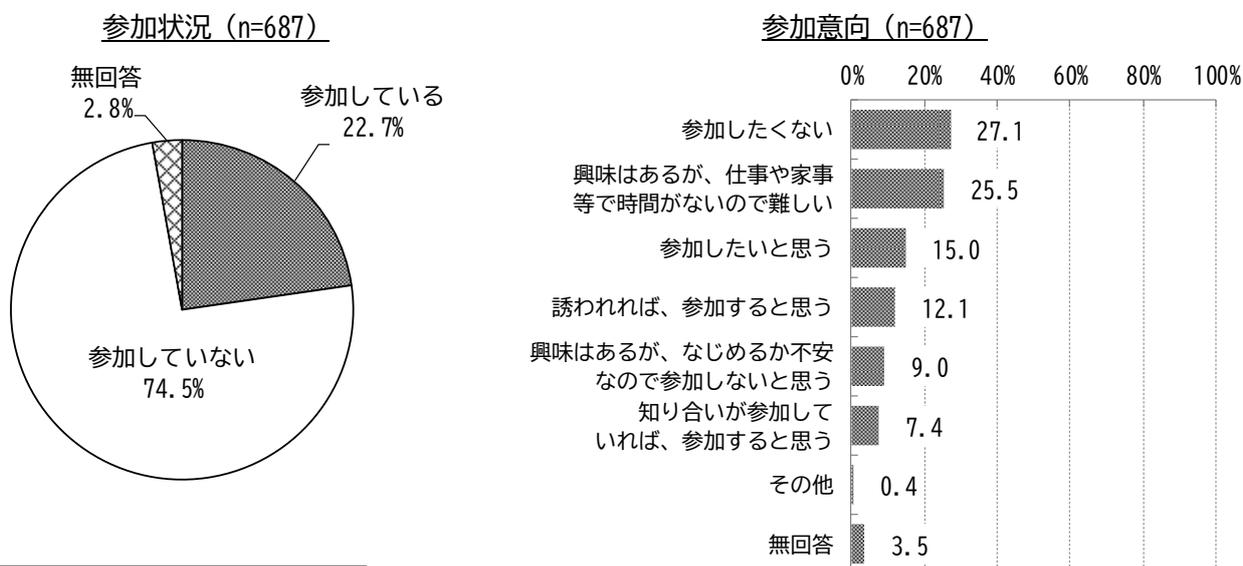
		n	ある	ない	回答しない	無回答
全体		687	2.6	91.4	2.6	3.3
性別・年齢別	男性	272	2.6	90.8	2.9	3.7
	男性・18～29歳	34	2.9	94.1	2.9	0.0
	男性・30～39歳	41	7.3	82.9	2.4	7.3
	男性・40～49歳	47	4.3	95.7	0.0	0.0
	男性・50～59歳	54	1.9	88.9	5.6	3.7
	男性・60～69歳	43	0.0	93.0	0.0	7.0
	男性・70歳～	53	0.0	90.6	5.7	3.8
	女性	399	2.3	92.7	2.0	3.0
	女性・18～29歳	53	3.8	92.5	3.8	0.0
	女性・30～39歳	62	6.5	90.3	1.6	1.6
	女性・40～49歳	60	0.0	96.7	1.7	1.7
	女性・50～59歳	87	3.4	96.6	0.0	0.0
	女性・60～69歳	78	0.0	94.9	1.3	3.8
	女性・70歳～	59	0.0	83.1	5.1	11.9

## (6) 地域活動等について

### 問20 地域活動や社会貢献活動等への参加状況、問21 今後の地域活動への参加意向

○現在、何らかの地域活動や社会貢献活動等に参加しているか<sup>1</sup>について、「参加していない」が74.5%と最も高い。

○今後、何らかの地域活動に参加したいかについて、「参加したくない」が27.1%と最も高く、次いで「興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい」が25.5%となっている。



<sup>1</sup> 参加している (%) = 100 - 参加していない - 無回答

## (7) 男女共同参画の取り組み等について

### 問27 男女の地位の平等感

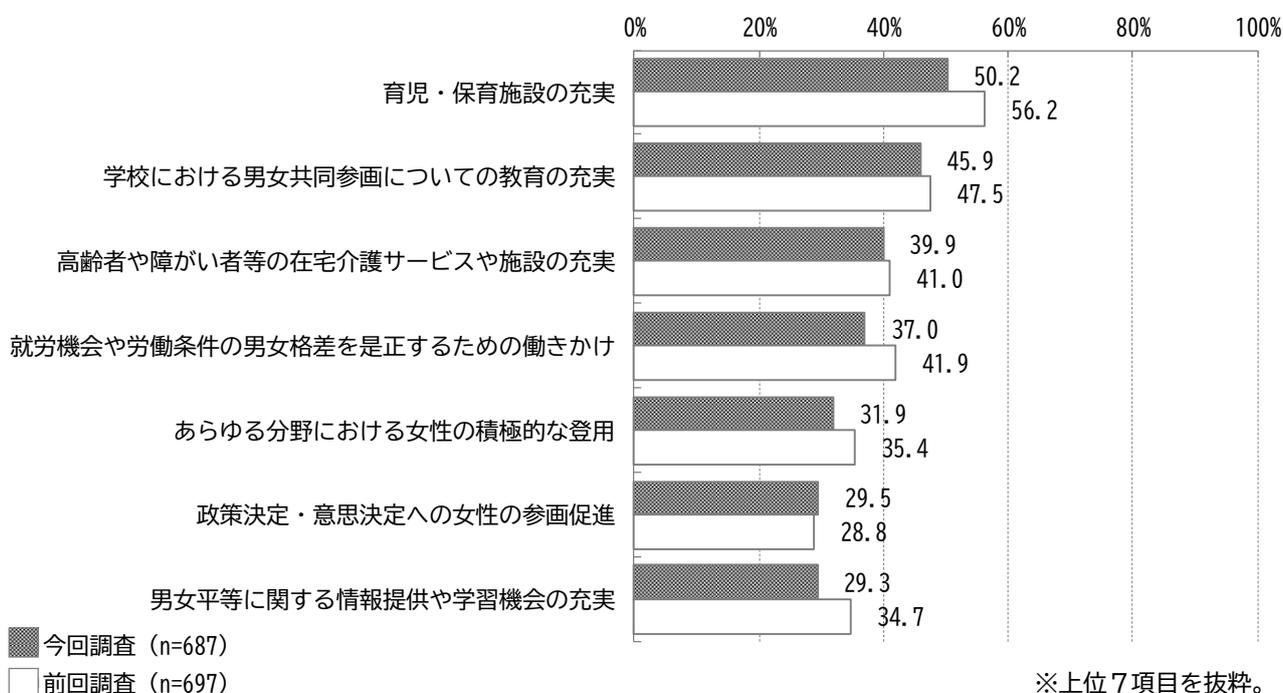
○男女の地位の平等感について、「教育の場」では「平等である」が68.0%、「家庭生活」では34.8%となっている。一方、「政治の場」「社会全体」「社会通念や習慣」「職場」では“男性優遇”（「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」との合計）が6割を超えている。

	女性優遇	平等である	男性優遇	無回答
家庭生活	18.8	34.8	43.2	3.2
職場	6.4	27.7	63.1	2.9
教育の場	3.5	68.0	25.2	3.3
政治の場	1.2	13.2	81.8	3.8
法律や制度	8.7	33.0	54.7	3.5
社会通念や習慣	7.8	18.6	70.0	3.6
社会全体	7.2	18.2	71.2	3.5

単位：%

### 問28 男女共同参画社会の実現を図るために、今後、区が力を入れるべきこと

○男女共同参画社会の実現を図るために、今後、区はどのようなことに力を入れると良いかについて、「育児・保育施設の充実」が50.2%と最も高く、次いで「学校における男女共同参画についての教育の充実」が45.9%、「高齢者や障がい者等の在宅介護サービスや施設の充実」が39.9%、「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」が37.0%となっている。



大田区男女共同参画に関する意識調査 報告書【概要版】(令和7年3月)

発行：大田区総務部人権・男女平等推進課

大田区蒲田五丁目13番14号 電話 03-5744-1610 (直通)